

5

て彼は子供等を雪の中に追出して、たつた一枚のふさんを奪つて家に鍵をかけた。

彼等は銘々うすい青い着物を只一枚しかもつて居なかつた。そして彼等はどこにも行く處がなかつた。餘り遠くない處に観音堂があつた。しかし其處まで行くには雪が余り深かつた。それで家主が行つてから、家のうしろにたごりかへつた。そこで寒さのための眠氣が彼等を襲ふた。そして彼等は暖かくなるために抱き合つて眠つた。そして眠つて居る間に神は新しい蒲團―物すごい程白い、そして非常に綺麗なふさん―で彼等を包んだ。そして彼等はもはや寒さを感じなかつた。長い間彼等はそこに眠つて居た。それから誰か、彼等を發見した。そして千手観音堂の墓場に彼等のための休み場ができた。

そして此話を聞いて宿屋の主人は、その蒲團をお寺の僧侶に與へて、小さい魂のために、お經をあげて貰つた。そしてそれからふさんは物を云はなくなつた。